

## 令和5年度 帯広百年記念館運営審議会会議録（抄）

開催日時：令和5年7月5日（水） 14時～16時00分

### 会議次第

- 1 委嘱状交付
- 2 教育長挨拶
- 3 開 会
- 4 正副委員長互選
- 5 報告事項
  - (1) 令和4年度帯広百年記念館運営審議会開催状況
- 6 議事
  - (1) 令和4年度主要事業実施状況等について
  - (2) 令和5年度主要事業計画等について
  - (3) その他
- 7 その他
- 8 閉会

### 報告(1)令和4年度帯広百年記念館運営審議会の開催状況

事務局

委員 昨年、絵画の収蔵庫がいっぱいであると聞いた。百年記念館だけでなく市の施設全てを対象に収蔵庫をどうしていくか、市の考えを方ききたい。

委員 地下ギャラリーができた時にギャラリーの奥に大きな部屋を設けたはず。記念館の収蔵スペースがいっぱいなら、そちらはどうか。

事務局 地下ギャラリーのことについては担当部署ではないため、ここでの返答は控えたい。当館の収蔵庫はほぼいっぱい、記念館の他の部屋に仮置きしている。予算上の問題もあって、すぐに対応できないが、他施設の空きスペースを探すなど解消に向けた検討に努めているところである。

### 議事(1)平成30年度主要事業実施状況等について

#### 【説明の要旨】

- ① 利用者等の状況
- ② 史料収集実績
- ③ 総事業予算決算
- ④ 事業活動内容

委員 平成30年度の統計上の利用者数減については、カウントの仕方の一因があることは理解した。百年記念館利用サークルの会員数の減少も影響があるとのこと。市のどの施設も減少傾向にあると思う。創造活動センタ

一部門の利用者をどう増やしていくのか聞きたい。

事務局

昼間の時間帯に陶芸教室をやっているが、時間帯から専業主婦と退職者が多いと思う。社会状況が変化して専業主婦が減り、一方、定年後も働いている人は増加傾向にある。想定利用者数が減っていると考えられる。

そこで今年度は試行的に1日で完結する体験的な陶芸講座を9月に実施する。その参加状況を見て、来年度以降、定期的に短期の講座を行うか検討する。

夜間の陶芸講座の参加者数は横ばい。

委員

退職してから新しいことを始めるには努力と覚悟が必要。働いている人が参加できる講座、例えば土日に実施してはどうか。時間帯も変えていくべき。このことは記念館に限らず、行政全般に言えること。働き方改革もある。働いている方が参加できる工夫をしていかないと先細っていく。退職後、男性は引きこもることが多い。そういう人を創造活動に引き込んで。

委員

私は記念館の創造活動に関わるサークルに所属しているが、若い人が入ってこない。今の話のようにしていくべき。高齢者はサークルに入っても辞めていくことが多い。

委員

百年記念館の3号室を利用している。今年の2月は暖房が効かないので部屋が寒く、利用を取りやめた。このようなことは今までになかった。

委員

10年近く百年記念館を利用する創造活動に関わるサークルに入っている。当初は若い人が多かったが、現在は時間的な問題のためか若い人は入ってこない。サークル展をやる中で、会員は増えてきている。年配の人だが、入会希望のサークル活動見学者はいる。サークルの展覧会の葉書を緑ヶ丘公園内で配って、会場の記念館へ案内している。

委員

私の所属しているサークルは、かつて入会希望者が多く、抽選を行った。今は会員数とその頃の1/3になった。若い人は少ない。土、日だったら出られるという人がいるが、そうすると他のメンバーから苦情が出るので、調整が難しい。関連のある2つのサークルに所属しているが、土日だけしか出席できないとなると年に数回しか出られない。2サークル間を跨り参加する人もいる。

委員

百年記念館利用サークルの現状を事務局は把握しているか。

事務局

全体的に会員が減っており、かつ若い人が少ないことは分かっている。利用促進を図る必要があるという認識をもっている。

委員

利用者減少の原因の一つに、各サークルの会員減少がある。その対応は百年記念館の役割では。

委員

管理費用について、平成30年度の予算と決算の差について聞きたい。

事務局 収支の差はあまりないといえる。執行残の多いものに光熱水費がある。  
委員 光熱水費の予算、決算について知りたい。トータル 300 万円くらい執行残があるが。

事務局 執行残の半分程度が光熱水費である。  
委員 執行残を修繕に充てられなかったのか。  
事務局 先ほどの 3号室が寒かったという件については、その当時、空調が故障し、修理が入る前の電気ストーブで凌いでいた時期のことであり、修理は完了済みである。

## 議事(2)令和元年度主要事業計画等について

### 【説明の要旨】

- ① 運営方針・目標
- ② 主要事業予算
- ③ 主要事業予定

委員 特別企画展についてだが、NHKの「なつぞら」が放送中である。観光サイドとタイアップの予定はあるか。

事務局 大きなタイアップではないが、「なつぞら」に関連した観光コンベンション協会のスタンプラリーに参加する。

委員 NHKに協力を要請するのは難しいのか。

事務局 調整中であるが、NHKは組織が大きいので本社に働きかけるのは難しい。ドラマに関係するものとしては、草刈正雄演ずるおじいさんのバターチャー（幕別町ふるさと館収蔵）を借りようと考えている。

委員 記念館の概要の課題について、①収蔵スペースの拡充・常設展示室のリニューアル、②施設の老朽化対策、③研究スタッフの充実・専門分野の拡充整備、とある。この課題は博物館の宿命。令和元年度にこの課題解決のために行う事業等はあるか。

事務局 特にはないが、例えばスタッフの充実については人の話なので簡単に進められないが、専門分野の充実のための研究についてはできるだけ事業のバランスを考えながら進めていこうと考えている。

委員 帯広畜産大学との協力関係、共同研究の可能性は。

委員 具体的にはないが、そのような話があれば協力していきたい。

委員 雑多な仕事が博物館に多いが、非常勤職員、臨時職員の人数は十分か。

事務局 非常勤のうち嘱託職員は昨年度と同数で行っている。

委員 学芸関係の臨時職員は一定数確保できているか。

事務局 学芸関係に係る定期の臨時職員は雇っていない。

委員 学芸員の負担が軽くなるような方向性を保ってほしい。

委員 施設、収蔵物、学芸員がしっかりして初めて博物館が成り立つ。3つ揃っ

ていく必要がある。

委員 百年記念館の設立時、学芸員は2人だった。現在は館長も学芸員。開館以来、学芸員は増えている。補助の体制も行政の努力の賜物。人がどう動くかが大切。研究も普及活動も記念館は一所懸命やっている。幼稚園、小学校も対象としてやっている。博物館講座の「学芸員のしごと」で、周知が図られている。これは私の意見だが、今まで伝わらなかったことが市民に伝わるようになっていく。

委員 記念館の規模で理想的な運用をするためには、どのくらいの人員が必要か。

委員 現状は少ないと思う。

委員 学芸員は雑芸員ともいわれている。収蔵されている史料の管理をしつつ、教育目的で皆さんに知らせる。観光的な役割も期待される。学校行事との連携もある。学芸員に対する要求が高まっていると認識している。それでいながら学芸員の質の向上も求められている。

事務局 理想というのは何人というよりは、むしろ学芸員が本来の専門業務である学芸業務に専念できるような体制が理想と考える。

委員 学芸員がサービス業的な仕事も含めて、様々なことをやっているのに、人が足りないといえるのでしょうか。

事務局 昨年の文科省の調査をみたところ、都市規模でいえば総合博物館という性格もあって、帯広は平均人数よりは少し多い。それぞれの地域の事情はあるので理想の形をこう、とは言えない。行政職員としての学芸員が、社会が多様化するなかで、どう対応していくかということも大事であり、その中でスキルを向上していくことが肝要かと考える。

委員 学芸員の質の向上は時間がなければできない。個人的には専門分野の追求が質の向上につながると考える。学芸員は忙しく、どこも人数不足という印象がある。

### 議事(3)その他

- ① 公共マネジメント計画
- ② 帯広百年記念館の今後について（他の社会教育施設等もふまえて）

上記の2件について事務局より説明を行った。

その後、事務局より帯広百年記念館、埋蔵文化財センターの施設・設備等の今後について委員に意見を求めたが、委員から回答するには時間が必要との発言があり、後日アンケート調査を実施することとなった。

### その他

事務局 健康増進法の改正を受け、7月1日より敷地を含め、全館禁煙となったことを報告する。帯広図書館、おびひろ動物園も同様となっている。

委員長 活発な意見交換ができた。ほかに質問・意見が無いようなので、本日の会議は終了とする。